

サステナビリティ・ガバナンス TCFD

三井化学グループは、ESGに関する方針・戦略・計画について、グループ横断的に討議する場として、ESG推進委員会を設置しています。本委員会における討議結果および活動実績は経営会議に報告しています。また、特に重要な事項については、経営会議や取締役会の承認を得ています。委員会発足当初は原則として年2回開催することとしていましたが、議論すべきテーマが年々増加し、2021年度は3回開催しました。2022年度以降は年4回開催する予定です。



ESG推進委員会(2021年8月～2022年5月)主な討議事項と意見(抜粋)

- VISION 2030の非財務指標の設定、非財務に関する年度予算編成方針の策定
 - ✓ KPIおよび目標設定の根拠を明確にし、ステークホルダーに対して説明することが重要。
 - ✓ 2030年のあるべき姿に向かって着実に進捗しているかを財務・非財務の両面でモニタリングすることが重要。
 - ✓ 財務指標と同様に責任部署を定め、各部署が自分事として年度予算に落とし込み、確実に実行することが必要。
- GHG排出量削減施策
 - ✓ 各設備に対しては、大幅な削減目標を掲げるだけでなく、段階的な転換策も検討するべき。
 - ✓ GHG削減施策検討にあたっては、コスト面からだけでなく、削減による製品の付加価値向上を訴えるマーケティング戦略も必要。
 - ✓ バイオマス原料の活用においては、サプライチェーンのデータを把握して調達リスクに備える必要がある。
- 製品カーボンフットプリント(PCF)を含むライフサイクルアセスメント(LCA)の基盤整備
 - ✓ Blue Value®製品の拡大を強調するにあたり、環境へのインパクト(貢献量)を社外に発信できるようにしたい。
 - ✓ 完成度が100%でなくてもまず実行に移し、実装の過程において修正・改善していくというスタンスで、スピード感を持って対応するべき。
- 人権方針の改定
 - ✓ コーポレート部門だけでサプライチェーンを管理することには限界がある。工場や事業部門などと協働で行っていくべき。
 - ✓ 当社の姿勢を明確に発信すべきである。一方で、人権リスクの高い国におけるパートナーや取引先のスクリーニングを行っていく場面などには難しさもある。
- ESG推進体制の見直し
 - ✓ 気候変動とプラスチックごみ問題への対応のために、現在はステアリングコミッティを設置しているが、今後もこの体制がふさわしいか否かは議論の切り口の一つである。
 - ✓ 全社的なリスクマネジメントをどのような体制で行っていくべきかについて、議論が必要。TCFDへの対応もその一環である。

Topics

各部門にESG担当者を設置 ～TCFD対応や人権デュー・ディリジェンスの全社横断的な推進～

当社グループは、財務・非財務の統合、情報開示内容の高度化、顧客要請の多様化などESG関連の社会的要請の高まりに対し、全社横断的な対応を深化させるため、各部門にESG担当者を設置しました。ESG担当者をESG分野のコア人材とし、ESG推進室と各部門がESG情報を収集・共有しながら、全社戦略や社外要請に対して一貫性のある対応を行っていきます。

ESG担当者を設置する部門

4事業本部、生産・技術本部、研究開発本部、デジタルトランスフォーメーション推進本部

協働業務(ESG推進室⇄ESG担当者)の例

- ・ Blue Value®・Rose Value®製品の拡大、貢献価値の見える化
- ・ TCFD対応
- ・ 人権デュー・ディリジェンス

三井化学ESG Link Café開店 ～全員参加型のESGを目指して～

当社グループは、ESG経営を実践するためには社員一人ひとりがESGを理解し、自らの業務に落とし込むことが欠かせないと考えています。

そこで2020年度から、「誰でも気軽に参加できる」をコンセプトに、全社員を対象とした自由参加の対話型オンラインイベント「ESG Link Caféワンポイントレッスン」を開催しています。ここでは、当社グループのESGに関する取り組みはもちろん、社会的に関心の高いESG関連の話題を多岐にわたって取り上げ、平易に紹介しています。説明後にはフリートークの時間を設け、ESGをテーマとした社内コミュニケーションの場としても活用しています。

これ以外にも、社内サイトでのESG関連用語解説の連載や、職場や部署を対象としたワークショップなど、様々な社内浸透を図っています。今後も複層的なアプローチを通して、社員一人ひとりがESGを自らの業務に落とし込むことを支援し、ESG経営の実践につなげていきます。

ESG Link Caféの主なテーマ

- ・ 三井化学グループのESG推進の取り組み
- ・ 三井化学グループのカーボンニュートラル戦略
- ・ プラスチック廃棄物をめぐる各国の動向

※2021年度 全10回開催、延べ1,118名参加

